

### 3. 北半球における最低気圧, Reykiavick (Iceland) 922.7mb (692mm), 1824和2月4日<sup>3)</sup>

この記録については詳しい状況が報告されていないが、同じ Reykiavick において1933年1月3日927.2mbの最低気圧を観測しており、この時は発達した低気圧がアイスランドを通過し、Reykiavick では7時に927.2mbを観測したもので、その朝の気圧はなお低かったらしいと報じている。参考までに1933年1月3日1300GMTの天気図\*を示しておく。

#### 4. 船舶の観測した最低気圧

##### a) 北半球 H.M.S. Tarifa 925.5mb (694.2mm)<sup>4)</sup>

1870年2月5日51°03'N, 23°59'W

##### b) 南半球(夏の捕鯨期間について)

第二日新丸(大洋漁業) 934.9mb(永田春生氏観測) 1959年12月8日1705GMT, 64°32'S, 165°43'W

南半球では今のところ夏の捕鯨期間の資料しかないのが十分のことは分らないが、第二日新丸の観測した上記

\* Historical Weather Maps による。

の気圧が最も低い。

観測されたのはロス海の北方沖であり、12月7日から9日までの観測資料を表示してあるが、12月7日の気圧を見ると一般にかなり低い気圧の場にあったようで、アデリー低気圧と同じように低い気圧の場の中で低気圧が発達したために気圧が低くなったものである。なお測器は柳船用バロメーターを使っている。

終に資料を借用した大洋漁業捕鯨部永田春生氏に深く感謝する。なおこの報文には資料調査で洩れた部分もあるかと思われるので参考となる資料があればご教示願いたい。

#### 文 献

- 1) 本邦東方洋上で猛烈に発達した旋風速報, 中央気象台, 昭和25年1月。
- 2) M.P.von Rooy (1957): Meteorology of the Antarctic, Weather Bureau, Pretoria, pp 66.
- 3) Hann-Süring(1926): Lehrbuch der Meteorologie, 4th ed., Leipzig, pp 223.
- 4) The lowest recorded barometric pressures at mean sea level. The Meteorological Magazine, Vol. 68, No. 805 (Feb 1933).

## 気 象 界 消 息

### 1. 第2室戸台風襲来

台風第18号(Nancy)は9月16日09時室戸岬の西に上陸、近畿、北陸に多大の損害を与えた。室戸台風の経路に似ているので、第2室戸台風と名づけられた。詳しくは本号350頁を参照。

### 2. インドに洪水

10月8日カルカッタ発の報道によると、ビハール州では700人以上の死者を出す洪水があった。北半球天気図によると、台風第22号(Sally)が追跡され、これは衰弱しながらインドシナ半島を横切り、ベンガル湾に入ってから再び発達し、6日にインド東岸に上陸しているので、この熱帯低気圧北方の東風によって洪水があったのではないかと想像される。

### 3. 藤原記念碑完成

藤原咲平前気象台長の記念碑が霧ヶ峯に建立され、その除幕式が10月15日行われた。

### 4. 小平信彦氏米国に出張

本学会会員、気象研究所台風研究部第三研究室長小平

信彦氏は、第9回気象レーダーの研究、調査、討論を行なうために、10月15日から11月13日まで米国に出張される。

### 5. 寺田一彦氏ヨーロッパに出張

本学会会員、気象庁海洋部長の寺田一彦氏は、10月19日から27日までパリで開催される政府間海洋会議に出席したのちモナコで10月30日から11月1日まで開かれる海洋学連合委員会に出席される。またベルゲン、ハンブルグにおいてCMM気象部会に関する業務打合せ、ジュネーブのWMO事務局、およびローマのFAO事務局での事務打合せに出席される。このため10月13日から11月15日まで、ドイツ、ノルウェー、スイス、イタリーに出席される。